

## 令和4年度第2回（第75回）CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和4年9月12日（月）15:00 ～ 16:20

場 所：Zoomによるウェブ会議

出席者（順不同・敬称略）

高木真人委員長、湯本公庸委員、清田修委員、植山淑治委員、八坂保弘委員、  
木寺幸司委員、高田英治委員、蔦森秀夫委員、橋本克巳委員、矢内悠介委員、  
尾崎章幹事、  
オブザーバ：井上和久様（日本コンクリート工学会）

### 配布資料

- 資料 2-1 令和4年度第1回（第74回）CPDプログラム委員会議事録（案）
- 資料 2-2-1 第40回（2022年度第2回）CPD運営委員会議事録（案）
- 資料 2-2-2 2022年度第1回CPD協議会公開シンポジウム（案）
- 資料 2-3 第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムの件
- 資料 2-4-1 日本工学会 CPD ガイドラインドラフト案
- 資料 2-4-2 日本工学会 CPD ガイドラインの改訂

### 議事

#### 1. 前回議事録の確認

- 資料 2-1 により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。
- これについて、高木委員長から以下の補足説明があった。
  - 国際エンジニアリング連合（IEA）の定める Professional Competency については、2021年改訂版の翻訳が MEXT の技術士分科会/制度検討特別委員会で報告されており、こちらを参照していきたい。
  - 前回の委員会でコメントを頂いた「学会の会員（特に産業界の会員）の減少」については、日本工学会としても対応が必要な課題と認識しており、会長懇談会でも話題としている。研究開発費率の海外企業との比較等も含め、CPD 協議会の範囲を超えるところもあるが、動向を視野に入れて活動していきたい。

#### 2. CPD 協議会運営委員会（第39回）報告

- 資料 2-2-1、2-2-2 により、CPD協議会運営委員会の議事内容が高木委員長から報告された。
  - 2022年度第1回CPD協議会公開シンポジウムについては、「社会・産業界のニーズにマッチした提供価値の高いプログラムの実践例」を紹介することを提案したことが報告された。CPD ガイドラインの改訂とも関係しており、また価値の高い有償プ

プログラムは学協会の収入増にも貢献する。良い事例が集まることを期待している。

- 公開シンポジウムについて、テーマや登壇候補者などについてご意見があれば、次回の運営委員会で紹介したいので、9月22日までに、メールで委員長と幹事まで連絡頂きたい。

### 3. 第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム

- 資料2-3により、8/31の理事会で決定された第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムの概要が、高木委員長から説明された。
  - 第1部、第2部ともメインテーマは前年度と同じ。サブテーマは変更し、第1部「若手技術者の活躍」、第2部「社会課題解決への挑戦」としている。
  - 現在、登壇者候補の推薦募集中で、CPD運営会議へは連絡済み。9/20の事業企画委員会で検討予定なので、推薦があれば今週中に提案頂きたい。

### 4. 日本工学会 CPD ガイドラインの改訂

- 高木委員長から、資料2-4-1により、委員から頂いたコメントにもとづく見直し・修正案、方向性が説明された。
  - 「モノづくり」だけでなく、ソフトやサービスを含めるべきとのコメントに対し、機能的価値（役に立つモノ）に加え意味的価値（意味のあるコト、ストーリー）と感性価値に、表現を工夫する方向性が説明された。
  - 本文中の「コンピューター」という用語は陳腐化しているので、デジタルやAI・データサイエンスなどの第6期科学技術・イノベーション基本計画（以下第6期基本計画）で使用されている用語に改め、さらに研究だけでなく活用できる人材の必要性についても取り込みたい。
  - 修正案に対するご意見・コメントがあれば、メールで委員長と幹事まで連絡頂きたい。
- 高木委員長から、資料2-4-2により、見直し改訂について、補足説明があった。
  - CPDやProfessional Competencyなどの用語の定義については、国際エンジニアリング連合（IEA）の2021年改訂版の翻訳がMEXTの技術士分科会/制度検討特別委員会で報告されており、こちらをもとに議論していきたい。
  - 「産業界のニーズの取入れ」は、少なくともCPDの目的などの文章には取り入れた。システムティックな取組については引続き議論が必要。
  - 「社会のニーズ」という視点では、第6期基本計画などの政策からの要請や経団連などの経済界の提言も参考としたい。
  - 専門職大学院の学長の講演で、教える側の論理でニーズに合わない社会人教育が行われることがあることを以前聞いたがある。その意味では、ニーズを見据えたりカレント教育を目指すという東京大学の藤井総長のコメントは卓越しているので再録した。
  - 我が国の社会人学習が市場ニーズを満たしていないということは、経済財政白書でも問題にされている。
- これについて、以下のコメントがあった。

- ガイドラインの中に IEA の Professional Competency などを記載することは良いと思う。
  - デジタルや AI・データサイエンスなどは、CPD の意義の中の社会背景として言及するか、具体的なプログラムの教育分野として記載するのか。  
→少なくとも CPD の意義の中では言及したい。プログラムの内容として記載するか否かについては、ご意見を頂きたい。
  - CPD プログラムの教育分野の記述にデジタルを追加しても良いのではないか。  
STEAM 教育も入れることを考えてはどうか。  
→STEAM 教育も考えたい。リベラルアーツの追記のご意見も別途いただいているので、STEAM 教育とするとこれらが含まれる。一般には初等中等教育が対象であるが、成長するまで待つ時間的余裕が今の日本に無いと考えると、社会人にも必要かもしれない。
- 引続き質問・ご意見をメールで委員長と幹事まで連絡頂きたい。
  - 委員会終了後、木寺委員（日本技術士会）より、CPD ガイドラインに掲載の CPD 実績登録証明書の例として、日本技術士会の最新の様式をお送りいただいたので、差し替えることとしたい。

## 5. その他

- 次回については、別途日程調整を行う。  
(会議時間 1 時間を前提に調整する。)

以上